



TITLE:

# 第22回物性若手「夏の学校」開催 後期・報告

AUTHOR(S):

---

CITATION:

第22回物性若手「夏の学校」開催後期・報告. 物性研究 1977, 29(3): 126-126

ISSUE DATE:

1977-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89454>

RIGHT:

## 第22回物性若手「夏の学校」開催後記・報告

物性若手グループ東大支部

### I. 開催後記

7月28日より8月3日まで長野県野沢温泉村で開催された第22回物性若手夏の学校では、学生・教師・一般約300名の参加があり、全体講義を中心にいろいろなトピックスが議論されました。ここにその開催後記と、座長・世話役による全体講義・サブゼミ報告を記録します。

例年通り、全体講義とサブゼミを置くシステムですが、今年は講義時間を長めにして、十分議論できるように配慮しました。内容については「報告」を参照して下さい。形式は6コース・パラレルの全体講義（AM 9:00～12:00; PM 3:00～6:00）と2日間にわたる学生のレポートを中心にしたサブゼミです。

28日の夜7時ごろから開校式が行なわれました。前回と同じ企画として、映画（Molecular Dynamics Investigation of Antiferrodistortive Structural Phase Transition, Radiation Damage, etc）の上映がなされました。準備局の準備不足もありましたが、楽しめたと思われます。

29日には総会が開かれました。夏の学校の財政問題について、このままで行くと、繰り越し金が底をつくのは時間の問題なので、どうしたらよいか問われました。すぐには解答の出ない事柄で、諸機関に働きかけて援助を願うことも提案されました。

夏の学校の目的として、もちろん物理研究の助けのために情報を提供することもあります。学生間の交流によって同じ物理を楽しんでいる（苦しんでいる？）ことを確かめ合うのも、将来の研究活動の支えになるでしょう。この意味で準備局は、花火大会・ビアパーティ（30日）、水泳大会（1日）を企画しました。たくさんの参加者があり、大成功に終わったようです。

最後に、テキスト作成のために余計な御苦勞をかけました講師の方々、開催援助にあられた諸機関に深く感謝致します。

### II 全体講義・サブゼミ報告

《全体講義日程》